

1973年 大会記録

国際

◇アジア選手権（5月18～24日、モンゴル・ウランバートル）

《フリースタイル》 ▼48kg級、▼52kg級 佐藤光太郎（警視庁）＝3位、▼57kg級 吉田栄勝（専大）＝2位、▼62kg級 横溝茂（中大）＝2位、▼68kg級 平松義高（自衛隊）＝2位、▼74kg級 畠山仁美（自衛隊）＝2位、▼82kg級 平井一十司（自衛隊）＝2位、▼90kg級 日比野喜代治（自衛隊）＝2位、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）＝2位、▼100kg以上級

《グレコローマン》 ▼48kg級、▼52kg級 佐藤光太郎（警視庁）＝2位、▼57kg級 桜間洋二（自衛隊）＝優勝、▼62kg級 平井一十司（自衛隊）＝優勝、▼68kg級、▼74kg級 平松義高（自衛隊）＝2位、▼82kg級 畠山仁美（自衛隊）＝2位、▼90kg級 開健次郎（自衛隊）＝2位、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）＝2位、▼100kg以上級

◇ワールドカップ＝フリースタイル（5月19～20日、米国トレド）

3位（1勝2敗）

1回戦 日本● [3-17] ○ソ連

2回戦 日本● [8-12] ○米国

3回戦 日本○ [14-6] ●カナダ

《個人順位》 ▼48kg級 工藤章（専大）＝優勝、▼52kg級 高田裕司（日体大）＝2位、▼57kg級 金子博（明大）＝2位、▼62kg級 宮原章（明大）＝2位、▼68kg級 和田喜久夫（大都リッチランド）＝3位、▼74kg級 伊達治一郎（国士舘大）＝優勝、▼82kg級 茂木優（国士舘大）＝4位、▼90kg級 鎌田誠（中大OB）＝3位、▼100kg級・100kg以上級＝出場なし

◇世界ジュニア選手権（7月30日～8月2日、米国マイアミビーチ）

《フリースタイル》 ▼48kg級 藤沢信雄（大東大）＝4位、▼52kg級 船津薫（東洋大）＝優勝、▼57kg級 太田利光（専大）＝2位、▼62kg級 我如古和徳（日大）＝優勝、▼68kg級 平沼義範（中大）＝3位、▼74kg級 横山勝幸（専大）＝6位、▼82kg級 小柳美代志（明大）＝2位、▼90kg級 下野正人（拓大）＝5位、▼100kg級 平田靖之（国士舘大）＝4位、▼100kg以上級 清水一夫（大東大）＝4位

《グレコローマン》▼48kg級 滝俊三（法大）＝二失、▼52kg級 萩原進（アイシン精機）＝2位、▼57kg級 長内清一（日体大）＝5位、▼62kg級 森園優（国士舘大）＝5位、▼68kg級 道本慶次（日体大）＝二失、▼74kg級 北啓介（東海大）＝二失、▼82kg級 柴田栄（拓大）＝二失、▼90kg級 高西一宏（国士舘大）＝二失、▼100kg級 佐藤晃司（明大）＝二失、▼100kg以上級 松永清志（東京・東京実高）＝3位

◇ユニバーシアード（8月16～24日、ソ連・モスクワ）

《フリースタイル》▼52kg級 下田和弘（拓大）＝優勝、▼57kg級 佐々木禎（日体大）＝優勝、▼62kg級 宮原章（明大）＝優勝、▼68kg級 菅原弥三郎（国士舘大）＝棄権

《グレコローマン》▼52kg級 桜間幸久（日体大）＝4位、▼62kg級 宮原照彦（日体大）＝4位

◇世界選手権（9月6～14日、イラン・テヘラン）

《フリースタイル》▼48kg級 工藤章（専大）＝5位、▼52kg級 高田裕司（日体大）＝3位、▼57kg級 吉田栄勝（専大）＝三失、▼62kg級 斎藤勝彦（秋田・秋田経法大付高教）＝三失、▼68kg級 七尾秀樹（国士舘大）＝二失、▼74kg級 出河満男（自衛隊）＝6位、▼82kg級 永野要祐（和歌山・田辺高教）＝三失、▼90kg級 飯野祐邦（明大）＝二失、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）＝三失、▼100kg以上級 磯貝頼秀（ゼネラル石油）＝三失

《グレコローマン》▼48kg級 今野隆三（丸紅）＝四失、▼52kg級 平山紘一郎（自衛隊）＝6位、▼57kg級 桜間洋二（自衛隊）＝一棄、▼62kg級 平井一十司（自衛隊）＝四失、▼68kg級 上東正（日体大）＝三失、▼74kg級 伊沢厚（法大）＝二失、▼82kg級 三戸豊治（警視庁）＝二失、▼90kg級 藤田芳弘（国士舘大）＝二失、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）＝三失、▼100kg以上級＝出場なし

《サンボ》▼48kg級＝出場なし、▼52kg級 山田俊二（自衛隊）＝5位、▼57kg級 吉田栄勝（専大）＝5位、▼62kg級 佐藤賢一（神奈川県警）＝6位、▼68kg級 松浪健四郎（木口道場）＝二失、▼74kg級＝出場なし、▼82kg級 三戸豊治（警視庁）＝二失、▼90kg級 星野政幸（専大）＝2位、▼100kg級＝出場なし、▼100kg以上級 鈴木久男（神奈川・横須賀学院高教）

国内

◇全国高校選抜大会（4月2日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 宮城・仙台育英、[2] 鹿児島・鹿児島商工、[3] 新潟・北越商、青森・八戸工

◇東日本学生リーグ戦（5月1～2・30日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 専大（3年ぶり3度目）、[2] 日体大

（A組順位）[1] 日体大、[2] 明大、[3] 中大、[4] 大東大、[5] 東農大、[6] 早大

（B組順位）[1] 専大、[2] 国士大、[3] 日大、[4] 拓大、[5] 東洋大、[6] 法大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月25～27日、大阪・大阪府立体育会館）

《順位》[1] 福岡大（2季連続2度目）、[2] 近大、[3] 大体大、[4] 同志社大、[5] 中京大、[6] 桃山学院大

◇全日本ジュニア選手権（6月7～9日、東京・日大講堂）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 藤沢信雄（大東大）、▼52kg級 高田裕司（日体大）、▼56kg級 太田利光（専大）、▼60kg級 我如古和徳（日大）、▼65kg級 平沼義範（中大）、▼70kg級 横山勝幸（専大）、▼75kg級 小柳美代志（明大）、▼81kg級 下野正人（拓大）、▼87kg級 平田靖之（国士館大）、▼87kg以上級 清水一夫（大東大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 滝俊三（法大）、▼52kg級＝優勝なし、▼56kg級 長内清一（日体大）、▼60kg級 森園優（国士館大）、▼65kg級 道本慶次（日体大）、▼70kg級 横山（専大）、▼75kg級 柴田栄（拓大）、▼81kg級 高西一宏（国士館大）、▼87kg級 佐藤晃司（明大）、▼87kg以上級 清水一夫（大東大）

◇東日本学生春季新人戦（6月13～15日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 藤永実（東農大）、▼52kg級 船津薫（東洋大）、▼57kg級 三須尚紀（早大）、▼62kg級 我如古和徳（日大）、▼68kg級 横山勝幸（専大）、▼74kg級 柴田栄（拓大）、▼82kg級 高西一弘（国士館大）、▼90kg級 平田靖之（国士館大）、▼90kg級以上 清水一夫（大東大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 森脇由晃（日体大）、▼52kg級 山路明（国士館大）、▼57kg級 加賀谷博貴（日体大）、▼62kg級 開場広三（東洋大）、▼68kg級 桜沢正志（日大）、▼74kg級 久野均（東海大）、▼82kg級 高西一宏（国士館大）、

▼90kg 級 佐藤晃司（明大）、▼90kg 級以上 清水一夫（大東大）

◇全日本社会人選手権（6月15～17日、東京・青少年総合センター）

《団体戦優勝》自衛隊

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 菊田順宏（自衛隊）、▼52kg 級 吉田貞夫（米盛商事）、▼57kg 級 尾川敏幸（ビジコン）、▼62kg 級 中野利男（体力づくり協会）、▼68kg 級 平松義高（自衛隊）、▼74kg 級 出河満男（自衛隊）、▼82kg 級 永野要祐（和歌山ク）、▼90kg 級 小松崎六合利（ビジコン）、▼100kg 級 秋山安成（三重自衛隊）、▼100kg 以上級=参加なし

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 今野隆三（丸紅）、▼52kg 級 石田和春（小玉合名）、▼57kg 級 柴田益美（木口道場）、▼62kg 級 斉藤久雄（大阪協会）、▼68kg 級 小林武（自衛隊）、▼74kg 級 松浪健四郎（木口道場）、▼82kg 級 沖村真五（警視庁）、▼90kg 級 三戸豊治（警視庁）、▼100kg 級 秋山安成（自衛隊）、▼100kg 以上級=参加なし

◇西日本学生選手権（6月24～25日、大阪府立体育会館別館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 稗田稔（近大）、▼52kg 級 ゴードン・バーデュー（福岡大）、▼57kg 級 福田耕治（同志社大）、▼62kg 級 中内怒（福岡大）、▼68kg 級 後藤龍男（近大）、▼74kg 級 安藤芳史（福岡大）、▼82kg 級 ビル・カリバス（大体大）、▼82kg 以上級 中沢正春（同志社大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 稗田稔（近大）、▼52kg 級 前田行雄（大体大）、▼57kg 級 久垣勝義（関学大）、▼62kg 級 大越悟（大体大）、▼68kg 級 兼川忠久（福岡大）、▼74kg 級 井尻裕信（近大）、▼82kg 級 ビル・カリバス（大体大）、▼82kg 以上級 中沢正春（同志社大）

◇ユニバーシアード代表選考会（7月6～8日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼52kg 級 下田和弘（拓大）、▼57kg 級 佐々木禎（日体大）、▼62kg 級 宮原章（明大）、▼68kg 級 菅原弥三郎（国士舘大）

《グレコローマン優勝者》▼52kg 級 桜間幸久（日体大）、▼62kg 級 宮原照彦（日体大）

◇インターハイ（8月2～5日、三重県桑名市・東洋ベアリング体育館）

《学校対抗戦》[1] 秋田・秋田商、[2] 鹿児島商工（鹿児島）、[3] 日大藤沢（神奈川）、八戸工（青森）

《個人戦》▼48kg 級 今野正人（宮城・仙台育英）、▼52kg 級 島田嘉久（長崎・島原工）、▼56kg 級 藤谷礼仁（山口・柳井商）、▼60kg 級 布施木正美（山形・山形南）、▼65kg 級 伊藤裕之（茨城・土浦日大）、▼70kg 級 加藤政和（富山・高岡商）、▼75kg 級 玉槻均（宮城・仙台育英）、▼75kg 以上級 簗島勇司（神奈川・日大藤沢）

◇全日本選手権（8月9～12日、東京・日大講堂）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 工藤章（専大）、▼52kg 級 高田裕司（日体大）、▼57kg 級 吉田栄勝（専大）、▼62kg 級 斎藤勝彦（秋田・秋田経法大付高教）、▼68kg 級 和田喜久夫（大都リッチランド）、▼74kg 級 出河満男（自衛隊）、▼82kg 級 永野要祐（和歌山・田辺高教）、▼90kg 級 飯野祐郎（明大）、▼100kg 級 吉田光雄（専大）、▼100kg 以上級 磯貝頼秀（ゼネラル石油）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 今野隆三（丸紅）、▼52kg 級 平山紘一郎（自衛隊）、▼57kg 級 桜間洋二（自衛隊）、▼62kg 級 平井一十司（自衛隊）、▼68kg 級 上東正（日体大）、▼74kg 級 伊沢厚（法大）、▼82kg 級 茂木優（国士大）、▼90kg 級 藤田芳弘（国士大）、▼100kg 級 吉田光雄（専大）、▼100kg 以上級＝出場なし

◇全日本学生選手権（9月3～5日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 藤沢信雄（大東大）、▼52kg 級 新島博正（国士舘大）、▼57kg 級 佐々木禎（日体大）、▼62kg 級 宮原章（明大）、▼68kg 級 菅原弥三郎（国士舘大）、▼74kg 級 伊藤良和（専大）、▼82kg 級 茂木優（国士舘大）、▼90kg 級 米山守（大東大）、▼90kg 級以上 吉田光雄（専大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大西浩三（日体大）、▼52kg 級 宇野勝彦（日体大）、▼57kg 級 長内清一（日体大）、▼62kg 級 伊達公洋（日体大）、▼68kg 級 菅原弥三郎（国士舘大）、▼74kg 級 長友寧雄（日体大）、▼82kg 級 茂木優（国士舘大）、▼90kg 級 米山守（大東大）、▼90kg 級以上 吉田光雄（専大）

◇西日本学生新人戦（9月23～24日、大阪・大体大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 窪田隆一（大体大）、▼52kg 級 村上梅春（大体大）、▼57kg 級 前田行雄（大体大）、▼62kg 級 長岡晃（大体大）、▼68kg 級 大越悟（大体大）、▼74kg 級 作本二郎（大体大）、▼82kg 級 井尻裕信（近大）、▼82kg 以上級 橋本節夫（桃山学院大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 窪田隆一（大体大）、▼52kg 級 村上梅春（大体大）、▼57kg 級 田中孝芳（大体大）、▼62kg 級 長岡晃（大体大）、▼68kg 級 大越悟（大体大）、▼74kg 級 作本二郎（大体大）、▼82kg 級 井尻裕信（近大）、▼82kg 以上級 橋本節夫（桃山学院大）

◇国体（10月15～16日、千葉・佐倉高）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg 級 工藤章（岩手・専大）、▼52kg 級 高田裕司（群馬・日体大）、▼57kg 級 佐々木禎（静岡・日体大）、▼62kg 級 前川健吉（岩手・国士舘大）、▼68kg 級 菅原弥三郎（秋田・国士舘大）、▼74kg 級 出河満男（埼玉・自衛隊）、▼82kg 級 安部段一（宮城・千鳥まんじゅう）、▼90kg 級 茂木優（秋田・国士舘大）、▼100kg 級 斎藤真（千葉・浦安高教）、▼100kg 以上級 磯貝頼秀（千葉・ゼネラル石油）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg 級 平田茂（鹿児島・国士舘大）、▼52kg 級 杉山三郎（三重・日大大学院）、▼57kg 級 中島俊美（岐阜・羽島高教）、▼62kg 級 近藤光弘（静岡・日体大）、▼68kg 級 田上高（鹿児島・甲南高教）、▼74kg 級 正木宏之（岐阜・日体大）、▼82kg 級 伊沢厚（静岡・法大）、▼90kg 級 佐藤晃司（埼玉・大東大）、▼100kg 級 谷公市（和歌山・古座高教）、▼100kg 以上級 矢田静雄（和歌山・粉河高教）

《少年フリースタイル優勝者》▼48kg 級 今野正人（宮城・仙台育英）、▼52kg 級 大場洋一（茨城・石岡一）、▼56kg 級 佐藤勉（秋田・秋田商）、▼60kg 級 多賀恒雄（新潟・新潟工）、▼65kg 級 奥瀬隆（青森・光星学院）、▼70kg 級 藤田末広（茨城・大子一）、▼75kg 級 谷津嘉章（栃木・足利工大付）、▼81kg 級 菊地利男（茨城・大子一）、▼87kg 級 伊藤大栄（新潟・北越商）、▼87kg 以上級 堀之内大介（宮崎・日向学院）

《少年グレコローマン優勝者》▼48kg 級 碓桂輔（鹿児島・鹿児島商工）、▼52kg 級 阿部哲夫（鹿児島・鹿児島商工）、▼56kg 級 藤谷礼二（山口・柳井商）、▼60kg 級 竹島靖夫（徳島・池田）、▼65kg 級 井阪二郎（三重・松阪工）、▼70kg 級 加藤政和（富山・高岡商）、▼75kg 級 小出日出夫（千葉・佐倉）、▼81kg 級 清水輝夫（群馬・館林）、▼87kg 級 児玉久雄（和歌山・粉河）、▼87kg 以上級 藤森安一（東京・東京工）

◇全日本学生王座決定戦（10月26～27日、東京・日大講堂）=決勝記録

専大○ [6 - 3] ●日大

※専大は3年ぶり2度目の優勝

◇東日本学生グレコローマン選手権 () = 決勝記録

日体大○ [] ●

※日体大は7年連続7度目の優勝

◇東日本学生秋季新人戦 (10月30日～11月1日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 滝俊三(法大)、▼52kg級 高田裕司(日体大)、▼57kg級 長内清一(日体大)、▼62kg級 鈴木伸彦(明大)、▼68kg級 小泉清一(国士舘大)、▼74kg級 横山勝幸(専大)、▼82kg級 柴田栄(拓大)、▼90kg級 高西一宏(国士舘大)、▼90kg級以上 アリ・サレヒ(拓大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 滝俊三(法大)、▼52kg級 田原重則(拓大)、▼57kg級 長内清一(日体大)、▼62kg級 堀井健一(国士舘大)、▼68kg級 小泉清一(国士舘大)、▼74kg級 椎野哲俊(日体大)、▼82kg級 柴田栄(拓大)、▼90kg級 高西一宏(国士舘大)、▼90kg級以上 アリ・サレヒ(拓大)

◇全日本団体優勝大会=社会人・学生対抗戦 (11月18日、東京・スポーツ会館)

《フリースタイル》学生選抜○ [6-4] ●社会人選抜、

《グレコローマン》社会人選抜○ [7-2] ●学生選抜

◇西日本学生秋季リーグ戦 (11月23～25日、大阪・大阪府立体育会館)

《順位》[1] 大体大(初)、[2] 福岡大、[3] 同志社大、[4] 近大、[5] 中京大、[6] 桃山学院大